

4 たばこ対策			
目標項目：4-1 喫煙の健康影響に関する知識の普及			
目標値 (平成22年度)	ベースライン値 (H12 県民健康栄養 調査)	中間評価 (H17 県民健康調査)	直近値 (H22 県民健康・栄養 調査)
肺がん 100%	90.6%	79.3%	88.1%
ぜんそく 100%	57.8%	54.9%	68.3%
気管支炎 100%	62.1%	59.4%	69.9%
心臓病 100%	41.4%	44.7%	53.1%
脳卒中 100%	36.6%	44.0%	55.5%
胃潰瘍 100%	34.2%	34.6%	36.2%
妊娠等 100%	81.4%	75.7%	83.3%
歯周病 100%	29.8%	38.5%	45.5%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン 値に対してどのような動き になっているか分析)	平成12年から平成22年までの比較結果は下記のとおり。 ○ぜんそく、気管支炎、心臓病、脳卒中、歯周病は有意に増加した(片側P値<0.001)。 ○肺がん、胃潰瘍、妊娠等は有意な変化はみられなかった(片側P値 肺がん=0.22, 胃潰瘍=0.432, 妊娠等=0.34)。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題 や留意点がある場合に記載)	○平成17年の調査結果は仙台市以外の地区のみの値である。 ○平成17年の調査報告では、無回答者を母数に含めて該当者割合を 算定していたが、平成12年、平成22年と比較するため、有効回答 のみを母数として該当者割合を再計算した値を中間評価値として 掲載した。		
その他データ分析に係る コメント	○全国(平成20年国民健康・栄養調査結果)値は、肺がん87.5%、ぜ んそく62.8%、気管支炎65.1%、心臓病50.7%、脳卒中50.9%、胃潰 瘍35.1%、妊娠等83.5%、歯周病40.4%と妊娠等に関する異常に関 する項目以外はいずれも宮城県の値が高い。		
最終評価及びコメント	○ぜんそく、気管支炎、心臓病、脳卒中、 歯周病については改善したが、肺がん、 胃潰瘍、妊娠等の項目は変わらなかった	評価 ぜんそく等5項目B 肺がん等3項目C	
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強 化・改善等すべきポイント)	○改善のみられない知識の胃潰瘍については、知識レベルがもともと 低く知識の普及度も低いため、他の項目以上に、今後更なる普及啓 発が必要である。		

4 たばこ対策			
目標項目：4-2 未成年者の喫煙の減少			
目標値 (平成22年度)	ベースライン値 (平成8年度未成年者の喫煙行動に関する全国調査)	中間評価 (平成16年度未成年者の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査)	直近値 (平成22年度厚生労働科学研究大井田班)
未成年者の喫煙率 0%	男性(中学1年) 7.5% 男性(高校3年) 36.9% 女性(中学1年) 3.8% 女性(高校3年) 15.6%	3.2% 21.7% 2.4% 9.7%	1.6% 8.6% 0.9% 3.8%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析)	○男性(中学1年)では有意に減少した(片側P値<0.001)。 ○男性(高校3年)では有意に減少した(片側P値<0.001)。 ○女性(中学1年)では有意に減少した(片側P値<0.001)。 ○女性(高校3年)では有意に減少した(片側P値<0.001)。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載)	○宮城県内の結果については把握しておらず、全国調査の結果である。		
その他データ分析に係るコメント	○喫煙率(月に1回以上喫煙した者の割合)は、男性が女性より高い傾向にある。中学1年から高校3年と学年が上がるにつれ高くなる。喫煙率の男女間の喫煙率の差が縮まっている。		
最終評価及びコメント	○宮城県の状況が把握できないため、評価できない	評価	E
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	○県内の状況が把握できておらず、目標として推進していくには、現状値の把握が不可欠である。 ○未成年者の喫煙防止に関する活動を引き続き行っていく。		

4 たばこ対策			
目標項目：4-3 禁煙希望者への支援による非喫煙率の増加			
目標値 (平成22年度)	ベースライン値 (H12 県民健康栄養 調査)	中間評価 (H17 県民健康調査)	直近値 (H22 県民健康・ 栄養調査)
男性 62%以上	43.8%	50.0%	59.3%
女性 92%以上	86.3%	86.5%	87.9%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン 値に対してどのような動き になっているか分析)	<p>○男性は、有意に増加した(片側P値&lt;0.001)。</p> <p>○女性は、有意な変化はなかった(片側P値=0.525)。</p>		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題 や留意点がある場合に記載)	<p>○平成17年の結果は、仙台市を除く地域での結果である。</p> <p>○平成12年、17年の調査では、「これまでたばこを吸ったことがあるか」の問いに「以前から吸わない」「以前は吸っていたがやめた」と回答した者を非喫煙者としているが、平成22年の調査は同様の質問で「以前は吸っていたが今は(この1ヶ月)吸っていない」「以前から吸わない」と回答した者を非喫煙者とした。</p>		
その他データ分析に係るコメント	○たばこをやめたいと思う者の割合は、男性より女性が高い(平成22年調査結果：男性41.0%、女性49.6%)。		
最終評価及びコメント	○男性は改善したが、女性は変わらなかった	評価 男性B 女性C	
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイント)	○喫煙者の約半数程度は禁煙を希望しているため、禁煙希望者が適切な禁煙指導等を受け、禁煙が実践できるよう、必要な禁煙支援医療機関の情報提供や、健診の場などでの禁煙への動機づけなどを進めていく必要がある。		

目標項目：4-4 公共施設における分煙対策の促進			
目標値 (平成22年度)	ベースライン値 (平成12年健康対策課 調査)	中間評価 (平成19年健康推進 課調査)	直近値 (平成23年健康推進 課調査)
公共の場(県, 市町村, 保 健所) 100%	61.2%	98.1%	100%
直近実績値に係るデータ分 析(直近実績値がベースラ イン値に対してどのような 動きになっているか分析)	○目標値に達した。		
データ分析上の課題(調査 分析をする上での課題や留 意点がある場合に記載)	○目標年度は平成22年度だが, 平成23年度に実施した調査結果を掲載 している。		
その他データ分析に係るコ メント	○受動喫煙対策としてとっている対策の中で最も多いのは, 施設内禁煙 で97.0%(平成23年度結果)		
最終評価及びコメント	○目標値に達した	評価 A	
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ, 今後 強化・改善等すべきポイン ト)	○平成22年2月の厚生労働省局長通知により, 公共的な施設について は, 屋内禁煙が望ましいという方針が出されたため, 今後は受動喫煙 対策の実施だけでなく, より効果の高い屋内禁煙に取り組む施設を 100%にしていくような取り組みが必要である。 ○県有施設及び市町村等のいわゆる公共施設だけでなく, 職場や家庭な どでも適切な受動喫煙対策がとられるよう, 更なる啓発が必要である。		